

平和を願っちゃだめですか？

今から 80 年前、日本は戦争をしていました。毎日戦場へ送られる男たち。出征を見送る村の人々。そして骨も入っていない白木の箱で帰ってくる戦死者たち。やがて東京をはじめ全国に投下されたおびただしい爆弾。そして広島・長崎。

もう一度、戦後の平和の意味を考えてみましょう。みんなの命を守る行動をとることが、無念の死を迎えた人々への慰霊の責務ではないでしょうか。

おびただしい犠牲の上にできた「日本国憲法」。世界の平和と命の大切さを高らかにうたい上げた前文を読み直しましょう！
こういう憲法を持っている日本国民がいかに幸せかをかみしめましょう！

戦争の足音が近づいている！

皆さんご存知ですか？最近の日本近海の不穏な動きを。アメリカの空母カールビンソン、インド・オーストラリアのフリゲート艦、それに持ってはならないはずの日本のヘリ空母「かが」が合同軍事演習をしました。イギリスの空母クィーンエリザベス、カナダのフリゲート艦も横須賀や沖縄の港に入っています。好戦的な日本の政権が各国の軍需産業につけいられているのです。中露の軍艦も日本近海を通過していきます。中東の戦乱がおさまった後は日本だぞ、と言わんばかりです。

どんなに軍事費を使っても、「戦争」に勝者はいるのでしょうか？国家予算ほどの建造費をかけた戦艦大和も特攻に出されて海の藻屑と消えました。一人一人の命を大切に、国民を豊かにすることこそが国を栄えさせる基本です。